

な か ま

福岡県知的障害者施設家族会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設家族会連合会
(略称: 福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX (092) 503-0579

虐待発生

岐阜県立障害者施設にて四十件
二度と繰り返さないよう求める

声 明

全施連理事長 福岡 廣明

令和7年7月23日(水)岐阜県
が県立の知的障害者支援施設内で発
生した虐待事案及び処分の内容を公
表しました。

その内容によりますと、14人の
職員が18人の利用者に対して合わ
せて40件の虐待行為をしていたと
いうことであります。虐待内容は、
利用者の顔や腹を強くたたいたり、
薬を飲ませる際に足をけったりする
などでありました。

障害者総合支援法が定める利用
者の人格を尊重する義務があり、権
利擁護をすべき施設職員から日常的
に虐待を受けていたという信じがた
い事実、利用者の恐怖、不安、さら
には家族の衝撃と怒りは、はかりし
れないものがあり、決して許される
ものではありません。
事案発生の原因は、

- ① 一人の職員が同時に複数の利用
者を支援する状況にあったこと
- ② 職員の虐待防止及び障がい特
性への理解が不足していたこと
となっています。

これまで、全施連は施設職員の確
保や質の向上についての課題を機
会あるごとに訴えてきました。平成
24年10月に障害者虐待防止法が
施行され、施設職員は研修(座学・
実践)を積み重ね職務を遂行してい
ると思いますが、このような事案
が発生した事実は、虐待に対する関
係者の理解がまだまだ十分ではない
現れでもあり、行政をはじめとする
関係者の責任は極めて重大と言わ
ざるを得ません。

この上は、このような事案が二度
と起らないよう、第三者委員会に

よる検証および確実な再発防止策が
策定されることを強く求めます。
令和7年7月20日

全国知的障害者施設家族会連合会 創立20周年を迎えて

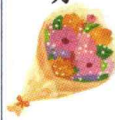
一般社団法人全国知的障害者施
設家族連合会は、20年前の今日
(2005年9月4日)全国14都
道府県連の参加により結成されま
した。

これまでの20年間、知的障がい
のある人たちとその家族の幸せの
ために、社員一同様々な活動に取
り組んできました。

しかしながら私たちを取り巻く
状況は課題が多く、引き続き厳し
いものがあります。私たちは、こ
れまでの活動を振り返るとともに
新しい視点を取り入れながら社員
が一緒になって取り組むことで一
つ一つ解決をしていきたいと考え
ています。

引き続きご支援ご協力をお願い
します。

理事長 福岡 廣明



みやま市議会で

請願四項目採択！

今年度初めから頼もしい紹介議員さんを得て、みやま市議会への請願書提出を行っていましたが、6月27日全会一致で採択されました。

福祉連の請願活動は、飯塚市・北九州市・大牟田市・柳川市・八女市に次いで県内6番目の市議会で賛成され、総理大臣・厚生労働大臣・財務大臣・衆参院両議長に届けられました。

この請願採択で地元存在する知的障害者入所施設に対しても議員や行政の理解が深まると思われます。

今回は蓮の実団地家族会会員の積極的な行動が大きな力となりました。選挙の時に一票を投じる地元議員と友好関係を築きたいものです。

と挨拶しました。

議長には第二田川学園の奥副会長が着席し、執行部役員一同で各項目を分担して経過報告を行い承認されました。

休憩後、自由問題の発言に移り、

コロナが治まっても面会時に居室に入れない、支援員の理解力不足で息子が落ち着かないがどう解決すべきか、足の爪切り知らぬ顔の半べえも支援放棄ではないか等、活発な議論百出でした。

施設紹介

千代の里

緒方 裕喜

「社会福祉法人千代の里」は朝倉市千代丸に在り、平成9年7月に入所者30名で開所した小規模で家族的な雰囲気施設です。

筑後川の上流に位置するため川底が浅く、一旦大雨が降ると氾濫の危険があります。過去には利用者も寝具を携えてピーポ

たこともありました。

現在は念願かなって令和5年1月に完成した新館（避難棟）に移動すれば安全が確保されるようになりました。

私たち家族にとって一番の心配事は何でしょうか？それは親・きょうだい亡き後利用者がどんな生活を送るだろうか？の一点です。

我が千代の里では「看取り」が約束され実施されているので、家族としてはひとまず安心していきます。

しかし医療機関とはちがいますので常時医療行為が必要な利用者は入院しますが、極力新館（避難棟）1階の個室で家族が付添も出来るよう設備も整えられました。

コロナ禍以前には実施されていた様々な行事は久しく中止に追い込まれていましたが、少しずつ復活し始めています。三月のひな祭り・お花見会・5月の日帰り旅行・6月の小運動会・7月の七夕祭など楽しく過ごしています。

現在は11月16日・17日に予定されている「第21回千代の里文化祭」を目標に利用者の皆さんはレリーフ・共同制作の絵画・毛筆・手芸・貼り絵等の作品に取り組んでいます。家族会もどんな支援ができるか？知恵を絞っているところです。

柳施設長を筆頭に、全職員をあげて利用者・家族会も一体になって「千代の里」が「安心の終の住処」となるよう取り組んでいます。



令和7年度理事会開催

9月14日(日)に福祉連令和7年度第一回理事会が開催されました。

出席は10施設13名の出席で、要件を満たしており、定刻に開催されました。

八木会長は直近情勢の中で、岐阜県立における知的障害者施設の40件を超える虐待事件に触れて、発信力の弱い知的障害者の代弁者として家族会は虐待を許さぬ智力と発信力を養おう

令和7年度 5月18日 定期総会三役留任

令和7年度福祉連定期総会が5月18日クローバープラザで開催されました。議長に大牟田ワークシヨップの金子憲治氏が選出されて議案は全て承認されました。

今年度の主な活動方針は、請願四項目の活動・行政機関・議会政党各派への陳情や意見交換会を最重点目標に掲げて活動することとなり、8年度までの新役員は次の通り決定されました

会長 八木トミエ(養徳苑)
副会長 奥昭義(第二田川学園)
副会長 横山緑(蓮の実団地)
副会長 矢野宏之(ひびき学園)
事務局長 坂井和希(板屋学園)
副委員長 金子憲治(大牟田ワークシヨップ)
副委員長 松木信子(第赤坂園)

副委員長 馬場正洋(大牟田ワークシヨップ)
会計 坂井和希(板屋学園)

会計監査 衛藤勇(周防学園)
会計監査 緒方裕喜(千代の里)(敬称略)

福岡県 北九州市 五項目の要望で意見交換

9月4日北九州市・22日には福岡県の障害福祉課へ5項目の要望について意見交換を行いました。

1、入所施設の医療体制の充実を

日々高齢化しつつある利用者の健康を守るため、看護師配置増員を自治体としても実現してください。

2、マイナー保険証の取扱いについて

施設では8月からマイナー保険証が実施されますが、嚴重な取扱い手順になっています。受診には職員が同伴すれば支障ないような対策を早急に実施してください。

3、地域連携推進会議設置について

7年度から地域連携推進会議設置が義務化されましたが、行政

からの指導は行われているのでしょうか。

メンバーは施設・地域代表・家族会代表・利用者代表で年1回以上開催と理解していますが未設置が多くあるようです。県の対応策をお知らせください。

4、主食の米の値上がりについて

最近の米の値上がりに施設の食糧事情を心配しております。利用者の食費値上げはないと聞いておりますがカロリー確保が万全か心配です。県の対策は如何ですか。

5、改築中の施設が資材値上がりに、苦慮しています。助成の増額を是非お願いします。

以上要旨

福岡県の回答要旨

福祉連からの要望事項に対して県や北九州市の障害福祉課長の対応は同じようなものでしたが、家族会の考え方に多少の理解を感じる意見交換会となりました。

①国に対して看護師の80人に1人の配置基準変更と職員の報酬加算単価見直しを国に依頼している。②施設によってマイナナンバーカードを預からない所があり、保険証がないため令和7年度8月から今年度「資格確認証」の発行申請をして下さい。

来年度は各市町村に問い合わせて下さい。③施設に個別指導を三年に一度しているから、その都度県から指導します。

④米その他食材費の値上がりについては相応の加算給付を行っている。⑤建築資材費の値上がりについては補助単位の見直しを県としても国に負担軽減の要望をしていきたい。

●北九州市の対応は同じような対応でした。

発信しよう！ 家族の声を

親の目から

我が子と歩いて

大牟田ワークシヨップセンター

金子 憲 治

40数年が夢の如く過ぎました。息子は生後産院で40度超の高熱となり公立病院に転院しましたが、障がい杞憂は現実となりました。訴訟を目指し弁護士に依頼して、カルテを押さえ、鑑定人依頼等手を尽くしましたが厚い壁に阻まれて断念しました。

大野城市のこどもセンターに幼い兄妹を連れて参加して宝泉寺温泉での子供キャンプは、障がい児を持つ家族同志の支えの場でした。

体の成長と共に近隣の三山を1日で走破する程の脚力となり度々所在不明となり、電車を止めては西鉄から、商品を取っては警察から呼出しを受けたら普通は無縁な経験も何度もしました。

きょうだいの目から

兄と二人

第二ひびき学園

青木 保夫

三つ上の兄は一才時脳性小児麻痺にかかり左半身が不自由になりました。母は毎日兄にマッサージをするために病院に連れて行き、帰りは近くの公園で滑り台に乗せて遊ばせていました。その後訓練を重ねて一人で歩けるようになりました。

小学校は私と同じでしたが兄は特殊学級でしたので、クラスの生徒から心ない言葉をかけられたこともあり、それが一番嫌なことでした。

小学校を卒業すると兄は一時間以上かけバスと電車を乗り継ぎ、当時の八幡養護学校へ一人で通いました。しかし私達は仲のいい兄弟ではありませんでした。健常者の私だけはい思ひをして体が不自由な兄は私や母に当たり散らすことがよくあり、

見兼ねた父が兄を紐でくくったことがありました。私は泣き出した兄が可哀想で「もう泣くな」と言っ紐を解いたこともありました。

兄は本当に楽しいことが好きで優しい人間です。両親は他界して今は二人だけの肉親です。

編集後記

「天は人の上に人を作らず人の下にも人を作らず」この言葉は明治の有名な人であった福沢諭吉の言葉だそうだが何とも耳障りの良い言葉だろうか。

長い人類の歴史の中で差別され続けたであろう知的障害児・者も現在は法律では社会の一員として人権を尊重されるものと規定されている有り難い世の中ではある。

しかし実態は根深い差別の社会であることを岐阜県の施設利用者への虐待が示している。職員の支援は基本的にはビジネスであり、それすら怠るとは。考えよう、家族は何をなすべきかを。

